

## ESDとは

ESD（Education for Sustainable Development）とは、「一人ひとりが世界の人々や将来世代「持続可能な社会の実現に、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」を言います。

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められています。

持続可能な社会とは、将来の子どもたちも含め、みんなが幸せに暮らせる社会です。その実現に向けた様々な課題について、各課題の構造（多様性、相互性、有限性）や、その解決に向けた行動が備えるべき要素（公平性、連携性、責任性）を正しく理解し、その解決策を見出すことが必要です。

### （課題の構造に関する概念）

**多様性** 自然・文化・社会・経済は、多種多様な事物から成り立っています。そうした多様性を尊重するとともに、事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。

**相互性** 自然・文化・社会・経済は、互いに働きかけあうシステムであり、人もそれらとつながりを持ち、人同士も関わり合って相互に作用していることを認識することが大切です。

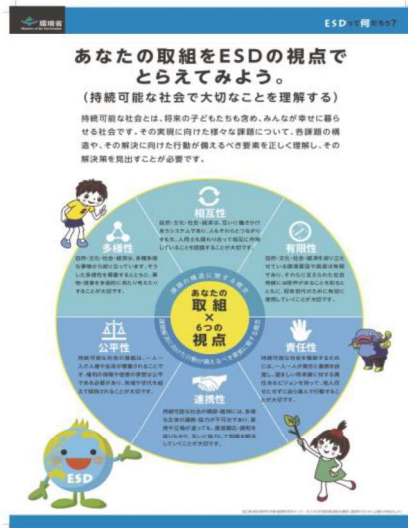
**有限性** 自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源は有限であり、それらに支えられた社会発展には限界があることを知るとともに、将来世代のために有効に使用していくことが大切です。

### （課題解決に向けた行動が備えるべき要素に関する概念）

**公平性** 持続可能な社会の基盤は、一人一人の人権や生命が尊重されることです。権利の保障や恩恵の享受は公平である必要があり、地域や世代を超えて保持されることが大切です。

**連携性** 持続可能な社会の構築・維持には、多様な主体の連携・協力が不可欠であり、意見や立場が違ってても、適宜順応・調和を図りながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。

**責任性** 持続可能な社会を構築するためには、一人一人が責任と義務を自覚し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持って、他人任せにせず自ら進んで行動することが大切です。



現実に直面する課題の発見・探究・解決の過程で、自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革して行くことができるようになるには、以下のような能力・態度を身に付けることが必要です。

**進んで参加する態度**

集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

**つながりを尊重する態度**

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度

**他者と協力する態度**

他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度

**コミュニケーションを行う力**

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力

**多面的、総合的に考える力**

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力

**未来像を予測して計画を立てる力**

過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、物事を計画する力

**批判的に考える力**

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に施行・判断する力

（環境省「ESDって何だろう？」より）